

# 再起動 北陸新幹線

## 第7回 石川および富山県内の延伸・再延伸に向けた戦略と開業日レポート

調査研究部 担当部長 藤沢 和弘



先月号（6月号）では、3月16日（土曜日）に実現した北陸新幹線の敦賀延伸に関連し、福井県内の4駅の開業日の様子や街づくり・戦略などについて報告した。本稿では石川県の新規延伸駅となった加賀温泉・小松に加え、再延伸を迎えた金沢・新高岡・富山・黒部宇奈月温泉の各駅の開業日の様子や、延伸開業までの地域の歩みなどについてレポートする。

### 1 新駅の開業日の様子と地域の戦略

#### (1) 加賀市 ～温泉と伝統産業とものづくり～

先月本誌に掲載した福井県の芦原温泉駅の東隣が加賀温泉駅となる。芦原温泉・加賀温泉と「温泉」の駅名が2つ続くが、これは関東や関西からの観光客に「癒し」という北陸のイメージを強く印象付けるものになる。

「加賀温泉郷」のHP (<https://www.tabimati.net/>)の説明によれば、加賀市は<sup>だいしやうじ</sup>大聖寺藩が置かれた〈大聖寺〉、加賀温泉郷の〈山代〉〈山中〉〈片山津〉の三温泉、日本海と接する〈橋立〉、旧北陸道に面した〈動橋〉の6つの地域からなるという。

また、加賀市は九谷焼・山中漆器などの伝統工芸でも有名な地域である。温泉や伝統産業については1300年～1500年前が起源とされ、大聖寺藩10万石を経て豊かに発展してきた。大同工業・ソディック加賀事業所・新家工業山中工場・江沼チエン製作所など、現在ものづくりが盛んな地域である。狭いエリアでありながら、1・2・3次産業がバランスよく同居する地域であり、3期目に入った宮元市長のもとスマートシティの取り組みが評価され、全国でも3自治体のみが指定された国家戦略特区「デジタル田園健康特区」



加賀温泉郷HPより

に加賀市が選ばれている。

#### ① 加賀温泉駅 ～かがやきが停まる駅に～

加賀温泉駅は、北陸新幹線延伸に伴いJR在来線駅南側に相対式ホーム2面2線と中央に通過線2線を有する高架駅となった。駅は紅殻格子を模した温泉街ら



加賀温泉駅

しい落ち着いた和風のデザインである。JR西日本は地元の要請を受け、北口を「日本海口」、南口を「温泉中央口」の愛称をつけている。到着ホームから見える加賀大観音と特徴ある駅舎は、東京・大阪方面から来る浴客に非日常を楽しんでもらう風情のあるものとなった。

## ② 開業日の様子

東京直通のかがやきは、芦原温泉駅と同じく、上下とも2本が停車する。開業当日は、東京行きの「かがやき506号（8:49発）」発車にあわせ、加賀市特命かがやき大使の歌手でタレントのグッチ裕三さん（夫人が加賀市出身）と、加賀温泉郷観光大使の中山夏月姫<sup>なつめ</sup>さんが出発の合図を出した。駅出口付近では地酒、加賀棒茶、紅白饅頭、女将による抹茶&お菓子がふるまわれており、時間によっては20～30人ほどの列ができていた。午前中は着物を着た女将や各種観光団体の法被姿の男性、市長・自治体職員など、出迎え・イベント関係者の姿が多かったが、午後からは家族客が目立ち、温泉旅館の旗を持った男性スタッフが出迎え、浴客を送迎バスに誘導していた。

加賀市と加賀商工会議所が中心となり、延伸した16日と翌日の17日を「加賀未来市（かがみらいいち）」とし、駅周辺で各種イベントが開催された。イベントスペースは、①マルシェエリア、②ステージエリア、③アート&チャリティエリア、④山中漆器祭、⑤九谷焼エリア、⑥振る舞い・おもてなし・芸能エリアに分かれ、多くの企業や市民団体が参加した賑やかなものとなった。ステージでは、グッチ裕三さんが加賀市をPRする「きまっし加賀」を披露したほか、加賀温泉郷のナイトマラソンをプロデュースする間寛平さんや加賀市出身のダンディ坂野さん、地元アイドル、YOSAKOI団体などが会場を盛り上げた。山中漆器エリアでは16店舗が出店する漆器祭のほかろくろ挽きの実演があり、九谷焼エリアでは加賀九谷陶磁器協同



開業イベントとお出迎えの様子

組合の作品紹介や絵付け・ろくろ体験などが開催された。芸能エリアでは、山中温泉芸妓組合、山代温泉獅子舞、加賀一向一揆太鼓などが花を添えた。

駅に隣接する「アビオシティ加賀」の1階セントラルコートでもステージエリアが設けられていた。とりわけ、加賀ロータリークラブ創立50周年記念事業として実施された「ピアノ寄贈式」では、YouTuberピアニストのハラミちゃんがスペシャルゲストとして登場し、多くの人が集まっていた。

改札横には地酒を立ち飲みできる「cafe&bar高乃蔵」があり、海鮮丼をはじめ地元の海鮮を使ったメニューや、北陸3県の地酒を飲み比べできるセットを提供、午後から夕方になり利用客が目立ち始めた。駅から徒歩1分の「加賀市美術館」では「店. てて展」が開催され、復興支援を目的としたアート空間を展開、地元客と観光客が半々ぐらいに見えた。

2015年の金沢延伸の際には、金沢に宿泊できない訪問客が高岡や加賀温泉郷にまで押し寄せたため、地域の温泉関係者も開業に向けた準備を進めてきた。加賀温泉郷の情報発信やおもてなしの向上を目指して2011年10月に誕生した「レディー・カガ」がマスコミで頻繁に取り上げられたり、「かがやきが止まらない」といった未延伸地域ならではの自虐キャンペーンなども好調で、「金沢の次は加賀も」という思いが盛



加賀市特命かがやき大使 グッチ裕三さんのステージ

り上がっていた。しかし、コロナ禍によって環境は一変。地元観光事業者にとっては、開業対策よりコロナ対策が最重要課題となってしまった。これを補ったのが加賀市役所である。もっとも有名なものはYouTube配信で大きな話題を呼んだ「加賀市新幹線対策室」シリーズであろう。このシリーズは2018年のseason 1から2024年season 6まで全20話が配信され、地元の人々も出演するコミカルなオリジナル動画として大きな反響を呼んだ。



【活動報告17】加賀市新幹線対策室 season6  
<https://www.youtube.com/watch?v=UJlv1mieEcU>

また、加賀温泉の女将たちがタップダンスチームを結成し温泉街を盛り上げるストーリーの映画「レディ



映画「レディ加賀」公式サイトより  
<https://www.ladykaga-movie.com/>

加賀」(小芝風花主演)が新幹線延伸に先立ち2月9日に全国公開された。加賀市が特別協賛し、ロケは現地で行われた。自然や食が登場しており、地域プロモーションの役割は十分果たせただろう。

「新幹線は町の将来を考えるきっかけ」(青森大学社会学部櫛引教授)と言われる。福井県では「100年に一度」という合言葉を使い、単に観光にとどまらない長期的な地域戦略が練られたことを先月号で紹介したが、加賀市については、すでに国家戦略特区の指定を受けるなど、長期的な発展の方向性を以前から持っていた。そのため、迷いなく開業対策を観光関連に全振りできたものであり、コロナ禍による民間事業者の準備不足や、元日に起こった地震の風評被害などをうまく補う結果となった。それでも加賀市や加賀温泉郷が活気を取り戻すには、特に東京から加賀温泉に流れ込む浴客をいかにリピーター化していくか、また漆器や陶器といった伝統産業を現代にマッチした新たな需要開拓につなげていくかなど、今後は事業者側の奮起が必要不可欠であろう。

## (2) 小松市 ～ものづくりと空港～

加賀温泉駅周辺とは異なり、小松は観光というより建機の「コマツ」に代表されるものづくりのイメージが強い街である。歌舞伎『勸進帳』で有名な安宅閑や那谷寺、粟津温泉などはあるが、観光業の存在感はそれほど大きなものではない。しかし、工業製品の出荷額は県内一で、米作も盛んである。ほかにも航空博物館「石川県立航空プラザ」をはじめ、世界中のボート競技者が集まる木場潟や複数のアリーナ・運動施設が充実しており、加賀市と同様にバランスの取れた産業構成をもつ街である。

また、新幹線駅と小松空港は直線距離で4km、自動車では10分ほどと近い。地元では「レール&フライト」で世界とつながる交通インフラをアピール。「産業創生都市」のキャッチコピーからもわかるように、ものづくりの高度化による発展を目標としている。

小松駅は、1897年に石川県初の鉄道駅として開業し、以降金沢ー福井間の主要駅として大半の特急が停車していた。新幹線ダイヤでは加賀温泉駅と同じく1日2本のかがやきと5本のはくたかが停車することとなり、かがやきで東京から2時間40分程度、はくたかでも3時間弱でつながる街となった。

東京から東海道・山陽新幹線で博多に行く場合、東京ー小松間と同じ時間で到達できるのは新神戸あた

り、東京ー金沢の時間だと新大阪あたりまで行ける。一方、大阪から敦賀乗り換えで小松に来る場合も2時間30分程度かかるので、小松は北陸新幹線経由東京ー大阪間の中間地点となる。観光で考えれば微妙な時間であるが、東京・大阪の両方に拠点をもつ企業にとって同じ時間で到達可能で、かつ空港もある小松は、今後工場の誘致や研究施設の立地などで有利になるであろう。「産業創生都市」戦略は地域の特性に沿ったものである。小松市も加賀市と同じく、「新幹線は街の将来を考えるきっかけ」ではなく、すでに持っている戦略や方向性に沿った開業対策が見られた。

### ① 小松駅

敦賀や福井と同じく既設駅への乗り入れで、駅舎のデザインは「白山の雄大な山並みと未来を感じる」がテーマとなっている。



白山をイメージした小松駅

駅の東側には、2011年に誕生した“地域とともに子供たちを育む場”「こまつのだ」と呼ばれる体験型複合施設がある。これはコマツの歴史や建設機械の仕組みを楽しみながら学べるもので、企業城下町らしい景観が広がる。「世界最大級のダンプトラック930E」、「超大型油圧ショベルPC4000」が並ぶ姿は圧巻だ。新幹線を利用する人々に「いかに駅で降りてもらうか」を考えた時、こまつのだは大きなアドバンテージになる。公園内にある「わくわくコマツ歴史館」「わくわ



小松のだHPより

くコマツ未来館」では、ミニショベル体験や、九谷焼オリジナル絵皿・ミニチュア建設機械など珍しい土産物もある。全国的な知名度はいまひとつであるが、今後は子育て世代やファミリー層にとって、福井駅前の恐竜広場以上に人気を集めるのではないだろうか。

### ② 開業日の様子

朝6時台からホームでは開業式典が始まり、アイドルグループ「SixTONES（ストーンズ）」のメンバー森本慎太郎さんが駆け付けた。小松市では開業記念イベントとして、3月16、17日に東口広場と西口の市民公園で開業イベントが開催された。16日朝9時から鍋が振る舞われ、馳知事と宮橋小松市長の祝辞をはじめ、サンリオのキャラクターやアイドルのステージ、YOSAKOI披露などが行われた。小松駅内では縄文・弥生土器を使った体験コーナーやお菓子づくりワークショップなど、子供や家族連れを意識した市民向けの催しが中心となり、加賀温泉駅と比べると観光色は控えめであった。また多くのグルメや土産物の出店が並び、駅周辺は終日多くの市民で賑わった。スタンプラリーの実施で地元商店街への誘導も非常にうまくいっていた。



開業イベントの様子

ステージでは加賀温泉と小松両駅の発車メロディを作曲・編曲した松任谷正隆・由実夫妻がサプライズで

登場し、トークショーでは「小松には空港があって新幹線があって空と陸がつながっている街」「僕のルーツは松任にあります」など夫妻で会場を盛り上げた。なお、両駅の発車メロディはまったく曲調が異なっており、ビジネスで未来を創っていく街と伝統・観光の街の違いが際立つものとなっている。派手な開業イベントではないが、地元の人々のお祭り感や、新規開業ならではのプレミアム感が十分に駅周辺で感じられた開業となった。今後は那谷寺やハニベ岩窟院など石文化を前面に出したコンテンツの掘り起こしや、粟津温泉・加賀 伝統工芸村「ゆのくにの森」への誘客など、観光面への本格的な取り組みが期待される。

## 2 第二の開業を迎えた地域

北陸新幹線の敦賀延伸を迎えた新規開業駅についてレポートしてきたが、次に2015年の金沢開業を経て今般第二の開業を迎えた地域の状況について簡単に見ていく。

### (1) 金沢市 ～余裕の第二開業～

空襲や地震の災害がなく、日本では珍しい「侍の文化」が残り、さらに街なかに鼓門や21世紀美術館など新しいコンテンツが散在する金沢は、「金沢ひとり勝ち」とも言われるほど、2015年の開業以降多くの人が訪れ、日本有数の観光都市に発展した。単に観光資源に恵まれただけのように見えるが、その裏には緻密で地道な開業準備が県・市ともに積み上げられてきたことは本誌でも取り上げてきた。金沢では、2015年以降も継続して観光コンテンツの磨き上げがなされてきている。主なものについて以下にあげてみる。

#### ① 国立工芸館の誘致

21世紀美術館を過ぎて左に兼六園を見ながら百万石通りの坂を上がっていくと、右手の本多の森公園の中の石川県立美術館と博物館の間に、国立工芸館がある。石川県と金沢市の誘致活動の結果2020年10月に東京より移転し開館した。明治時代に建てられた旧陸軍第九師団司令部庁舎・旧陸軍金沢偕行社の2棟を移築・整備のうえ再利用したもので、建物を見に来る建築ファンも多い。

国立工芸館は東京国立近代美術館工芸館として1977年に千代田区北の丸公園に開館し、日本の工芸



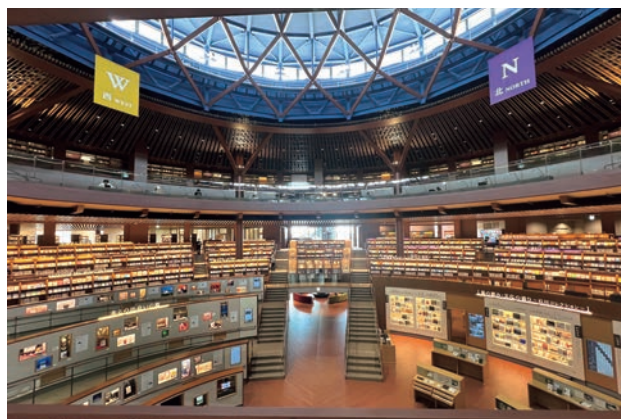
国立工芸館 金沢市観光公式サイトより  
[https://www.kanazawa-kankouyoukai.or.jp/spot/detail\\_50488.html](https://www.kanazawa-kankouyoukai.or.jp/spot/detail_50488.html)

はもちろん、世界の工芸やデザインを所蔵していた。展示物には現代のグラフィックやプロダクトデザインもあり、美術ファンが多く訪れる21世紀美術館からの流動を確保し、街なか観光をさらに東の小立野地域まで拡大させる役割を担っている。東京など関東地方からの来館者が多く、当初の目論見どおり地域工芸の発展に加え、工芸ファンによる金沢訪問にも寄与している。

#### ② 石川県立図書館（百万石ビブリオバウム）

国立工芸館からさらに2 kmほど東南の旧金沢大学工学部跡地に、2022年7月に移転開館したのが石川県立図書館である。広大な大学跡地には図書館と金沢美術工芸大学が新築移転されている。旧キャンパスを貫く大通りが新設され、両側にそれぞれの施設が配置されており、地域の交通問題を解消させながら新たな文化空間に生まれ変わった。

県民のための文化施設ではあるが、意匠を凝らした建物自体の魅力や、半円形に広がる書棚の圧倒的な存在感、Wi-Fi完備かつコンセントが装備された閲覧室・自習室・講義室、さらに人気のカフェが併設されるな



石川県立図書館 館内の様子

ど多くの機能を持つ。また、親しみやすい図書館にするために、エリアによっては会話も可能であり、老若男女を問わず来館者は非常に多い。

特色あるこの図書館は全国的にも紹介されることが多く、県外観光客の訪問も多い。金沢は鼓門や21世紀美術館など従来の発想にとらわれない型破りな施設で訪問客を増やしてきたが、この図書館もそれらの延長上にある。同時期にオープンした敦賀駅隣接の公設書店「ちえなみき」（先月号にて紹介）、福井の恐竜博物館や後述の富山の美術館などと同じく、新たな観光コンテンツに地域の人々も利用する文化施設を充てるという手法は今後さらに各地に広まっていくであろう。

### ③ 宿泊税の新設

新幹線開業以降急速に増加した観光客の入込は地域経済にとっては大きなプラスであったが、反面オーバーツーリズムも問題視されていた。人混みや交通渋滞の発生、騒音やゴミ問題、環境破壊などが引き起こされるおそれもあり、金沢市は日常生活と観光を両立させるため、2019年4月に宿泊税を導入した。ホテル・旅館はもちろん簡易宿所・民泊も含むほぼすべての宿泊施設に、1人1泊2万円以上で500円、2万円未満の場合200円が税として徴収されている。宿泊税は金沢経済同友会の提案が発端で、導入当初の計画では、「まちの個性に磨きをかける歴史・伝統・文化の振興、観光客の受け入れ環境の整備、市民生活と調和した持続可能な観光の振興」などに活用されるとしていた。2023年に開催された有識者会議においては、コロナ禍にもかかわらず前年度の納税額が当初計画以上の7億4000万円となったことが報告され、旅行者からの不満も非常に少ないことがアンケートなどで紹介された。2024年の有識者会議では、能登半島地震による宿泊キャンセルや復興支援活動に配慮し、1泊5000円未満は宿泊税免除という方向が示されている。

宿泊税議論の中で、観光事業者から大きな反対はなく、コロナ禍においても中断されることなく制度は続いており、年間7億円以上という税収をオーバーツーリズム解消やコンテンツのブラッシュアップなどに活用できていることは、金沢観光の持続的な発展を財政面から大きく支えている。

このほかにも金沢市は、2020年8月には街なか観光の拠点として市の中心部に「金沢中央観光案内所」を設置、石川県も本年3月に兼六園に隣接する兼六駐車場を大幅に拡張・リニューアルし、観光バス40台、

乗用車480台を収容できるようにした。「金沢ひとり勝ち」のムードに踊ることもなく、地道に第二の開業に向けて準備を続けてきたことがわかる。

### ④ 延伸開業日の様子

延伸日の朝6時前から延伸する一番列車に乗ろうと大勢の鉄道マニアが駅周辺に集まり、夜明け前にもかかわらずコンコースに人が入りきらないほど混雑していた。

石川県知事などの出席者がホームでテープカット



金沢駅前の延伸日の様子

を行い、レスリング五輪金メダリストの金城梨紗子さんと恒村友香子さんの「川井姉妹（石川県津幡町出身）」らに見送られ、6時ちょうどに一番列車が敦賀駅に向けて出発した。川井姉妹はこのあとコンコース内ステージでトークショーを行ったほか、金沢芸妓や金澤弦楽四重奏団のパフォーマンスなどで祝賀ムードを盛り上げた。また、駅東口の鼓門下ステージにおいては加賀<sup>とび</sup>・加賀<sup>はやし</sup>囃子<sup>ご</sup>・御陣乗太鼓<sup>ごじんじやうだいこ</sup>のパフォーマンスが、地下広場ではおもてなし茶会など、終日たくさんのイベントで賑わった。被災地から登場の御陣乗太鼓の演舞は特に見事で、応援の拍手も多く当日一番の盛り上がりとなった。

9年前の北陸新幹線開業日には、多くのマスコミが訪れ、街中にはタレントやキー局のアナウンサーなどであふれたが、今般の第二開業においては、それほどマスコミが集中するという感じではない。また、ほかの駅前で見られた飲食・土産物の屋台やテントなどはなく、和装の女性も多くみられたが、新規開業時ほどではなかった。朝一番の駅周辺はかなりの人であったが、昼前には落ち着きを取り戻しており、県内で新規に延伸する小松や加賀温泉に配慮した規模のイベントとなった。すでに国内有数の観光都市となり、新たな観光コンテンツやブラッシュアップに向けた財源確保などに注力した金沢にとっては、開業イベントの盛り上がりより、インバウンドを含めて継続的に成長・発展していく次のステージに移った印象が強く残った。

## （2）高岡市 ～かがやき停車ではない対策を～

### ① 新幹線開業後の高岡

富山県の3駅は第二の開業をどのように迎えたのか。金沢・富山・福井に次ぐ北陸第4の都市が富山県高岡市である。2014年8月、かがやきを新高岡に停車させないことをJR西日本が発表し、地元が反発。これ以降「かがやきを新高岡に停車させること」が新幹線対策の中心となったまま開業を迎えた。この活動により、開業時には1日1往復のかがやきを停車させることに成功したものの、2017年12月からは、「利用者が少ない」としてJR側が、主に土日祝日のみの停車とし、平日は通過となってしまった。富山県西部自治体等で組織された「北陸新幹線新高岡駅かがやき停車実現期成同盟会」は開業後も活動を続け、23年6月には、国土交通省鉄道局長およびJR東日本に対し、かがやき停車の増加を求めている。その結果、今回の

延伸に際して、「臨時列車」という扱いながら、最大2往復が新高岡に停車することになった。

3月14日～6月30日までの毎日については、朝の東京行きと夜の新高岡着が1本ずつ、ゴールデンウィークなど多くの利用が見込まれる日については、昼前の新高岡着と夜10時前に東京着となるかがやきが1便ずつ追加された。小松以西の加賀温泉などでも1日2往復のかがやきが停車することを考えれば、新高岡も同等の扱いは最低限必要という判断であろう。とはいえ、長野までの各駅との公平性と金沢までの速達性を確保したいJRとすれば、金沢以东と金沢以西の扱いは異なる。対して高岡市民にとっては、ほぼすべての特急が高岡に停まっていた時代の記憶がある限り不満は払しょくできない。

2015年の開業以降、観光客で賑わう金沢と比較して高岡は街全体の衰退を止めることができなかった印象が強い。北陸新幹線の新駅周辺整備などの事業費がかさみ、18年度には一般会計予算の5%にあたる40億円が不足の状態となったほか、人口も転出超に転じた。中心市街地の象徴であった大和百貨店は19年に撤退し、商店街では空き店舗が増えた。21年に市長が交代し行財政改革により収支は改善したものの、沈滞ムードは依然として影を落としたままである。そのような中で2度の開業対策の中心活動が「かがやき停車」という陳情型となってしまったのは残念である。そもそも、高岡は人口が多いものの、平野部が広く町の中心を広大な城址が占めることから、賑わいの中心となる場所が地域に散在しがちな土地柄である。このような前提を明らかにしてから、どの地域にどのような機能を持たせていくかなどゼロベースで街づくりを考えなくてはならないだろう。この9年間における新高岡駅周辺の開発スピードは速く、ビジネスホテル開業や、北陸最大のイオンモール高岡が19年に既存棟西側を大規模増床するなど開発が進み、街なかの人流を決定的に変えた。20年には高岡駅前の末広町地価を新高岡駅周辺の京田地区が抜いたことは象徴的である。以前当誌では、「高岡の発展は飛越能の玄関口としての機能を充実させることである」としたが、現在のところは地域内部の人の動きを変えるにとどまっている。陳情型から脱してしっかりとSWOT分析したうえで地域の長期のグランドデザインを描くといった福井の4駅で見られた令和型の街づくりが求められる。

観光面では、2022年12月に伏木地区の「勝興寺」

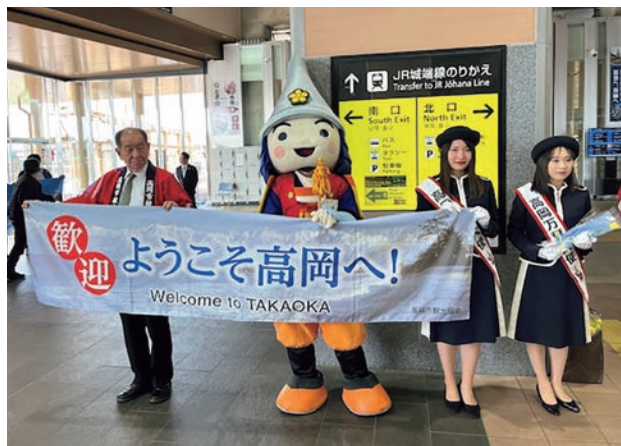


2022年12月に新たに国宝に指定された「勝興寺」  
富山県観光公式サイト とやま観光ナビHPより  
<https://www.info-toyama.com/attractions/21114>

が国宝に指定された。加賀藩2代藩主前田利長の菩提寺「瑞龍寺」も国宝である。高岡は歴史や文化が豊富で、海越しに見える立山連峰など素晴らしい景観もある。高岡の国宝訪問ルート、周辺の雨晴海岸やJR氷見線・ひみ番屋街を含め、観光コンテンツの掘り起こしや周辺エリア一体での取り組みが期待される。

## ② 延伸開業日の様子

駅構内では富山県西部の6市（高岡市、射水市、砺波市、小矢部市、氷見市、南砺市）の職員と角田市長・高岡万葉大使らが横断幕を持ち関西・中京方面からの来客を出迎えた。富山県西部各市の観光パンフレット、



新高岡駅の延伸日の様子

ポケットティッシュ、チューリップ、ジャポニカ学習帳（ショウワノートの本社は高岡）などを配布した。高岡市は、「子供中心」「復興支援」というコンセプトを軸にイベントを組み立てており、駅前広場では高岡市とイオンモール高岡が連携したイベントが開催された。家族連れで賑わっており、マルシェ・働くくるま乗車体験・ミニ新幹線など、どれも10時過ぎには子供連れの長い列ができていた。イオンモール館内では2015年の金沢開業時の写真展や「高岡×金沢連携」と銘打たれた伝統工芸品、能登地震被災地の復興物産展などが開催された。

## (3) 富山市

### ～駅周辺のインフラ整備と次の観光戦略～

2015年3月の開業日、富山駅周辺は地元の人々のお祭りムードで盛り上がりを見せたものの、駅周辺の入り組んだ土地事情などにより新幹線駅周辺としての整備はほとんどできていなかった。駅前交差点前にはバリケードがはられ、駅前には土砂が積まれたままの部分もあり、新規開業の景色とは言えない光景であった。土産売り場をはじめ仮設のものが多く、開業対策に時間とコストをかけ万全で臨んだ金沢との残念な対比が目立った。また、関西圏への往来も金沢での乗り換えが必要になってしまった。そのため、富山にとって、今般の第二の開業については期するものがあつたはずである。特に富山ー大阪間は延伸前最短でも3時間4分がかかっていたが、延伸による時短効果が30分近くあり、2時間35分で結ばれることとなった。東京から2時間圏内という恵まれた立地に加え、今後は観光にしても産業にしても関西との結びつきを意識した取り組みが必要となってくる。

### ① 駅周辺の再開発

北陸新幹線が開業して以降の9年間、富山市はひたすら駅周辺のインフラを整えてきた。一連の工事は「富山駅付近連続立体交差事業」といわれ、富山の街を南北に分断する在来線（旧北陸本線）を新幹線と同じく高架化し、地上部分に富山駅と富山港を結ぶLRT「ポータルム」を富山市内の路面電車（市電）に直通乗入れさせたほか、これまで歩行者は地下道を通して南北に移動していたものを、路面電車に沿って地上の自由通路を設置、周辺道路の整備も進めることで、明治期から続いた街の南北分断を解消させた。新幹線駅の1階に路面電車が直交する景色は、全国でも富山でしか見られず、鉄道マニアの間では大きな話題となった。ま

た、駅周辺にはいくつかの新たなハイブランドのホテルを誘致したほか、22年3月には駅横に複合商業施設マルトがオープン、観光客に加え地元の人々の賑わいが続いている。

## ② 観光コンテンツの開発

観光面でもこの9年間でいくつかの新たな動きがあった。国内ではウォーホルなど近代アートで評価の高かった富山県立近代美術館を富山駅北側の富岩運河環水公園西地区に「富山県美術館」として2017年3月に新築移転。富山県の主要産業であるアルミを多用した外観を持ち、立山連峰を一望できるほか、屋上には芝生張りの屋上庭園を設置、子供の遊び場となっている。金沢の21世紀美術館ほどではないが、一定の来館者を確保している。ほかにも富山県水墨美術館（1999年開館）や富山市ガラス美術館（2015年開館）など特色ある美術館が富山には多くなった。



富山県美術館HPより <https://tad-toyama.jp/>

また、富山市岩瀬地区の観光開発も進んだ。国指定重要文化財「北前船廻船問屋 森家」、国登録有形文化財に登録されている「馬場家」などを中心に古い町並みの保存や再現が進み、富山駅からライトレールや富岩水上ラインで20分あまりと近いこともあり、首都圏から金沢旅行をした観光客に対し「半日観光」の需



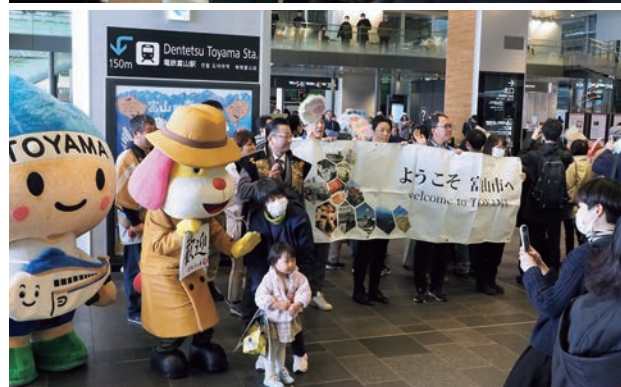
岩瀬の街並み とやま観光ナビHPより  
<https://www.info-toyama.com/attractions/80026>

要を十分に吸収できるまでになった。

食に関しては、富山県は、富山でとれたコメと富山湾の地魚を使った10貫のすしと汁物をセットにした統一商品を「富山湾鮎」と名付け、地域の各店舗で提供してきた。昨年より県は、『すしと言えば、富山』を合言葉に、富山のすしの魅力を世界に発信するプロジェクトを始めている。「うどん県」で認知度と好感度を上げた香川県を参考に「寿司＝富山」を連想する人の割合を今後10年間で90%にするという。金沢の街なか観光や福井の恐竜のような、一点突破を図る誘客スタイルがようやく始まったところである。

## ③ ものづくり立地の優位性

一方で、主力産業であるアルミ関連業界の低迷や医薬品製造業の不祥事など、ものづくり産業面ではやや低迷感が否めないものの、本誌でも以前報告した通り、



富山駅の延伸日の様子

2015年以降富山県内では工場立地が進んでおり、団地の造成が相次いだ。もともと2015年の国勢調査によると、富山県は全就業者に占める製造業・建設業など第2次産業の就業者割合は33.08%と全国トップである。今後は関西圏の企業による進出も期待され、ものづくりの重点地域として継続的な発展がまだまだ期待できる強みもある。

#### ④ 延伸開業日の様子

新幹線ホームでは午前6時頃から式典が開かれ、富山市の藤井市長などが参加した。敦賀駅に向かう午前6時21分発の「つるぎ3号」の出発に際して関係者約300人が集まり、テープカットなどの出発式が行われたほか、9時13分の「つるぎ2号」到着の際には新田知事をはじめ県職員が出迎えに加わった。

その後、越中八尾おわら保存会による踊りの披露や細工かまぼこの展示会などで駅は終日賑わい、第二の開業にかける富山の意気込みが感じられた。

### (3) 黒部市

#### ～健闘を続けた宇奈月温泉とYKKの一部本社移転～

第二の開業を迎えた地域として、最後に黒部宇奈月温泉駅周辺について報告したい。黒部宇奈月温泉駅は黒部市中心街から3km東に位置し、富山地方鉄道本線の新黒部駅に隣接する。宇奈月温泉は乗り換え後10駅約25分（ノンストップ特急は17分）かかる。



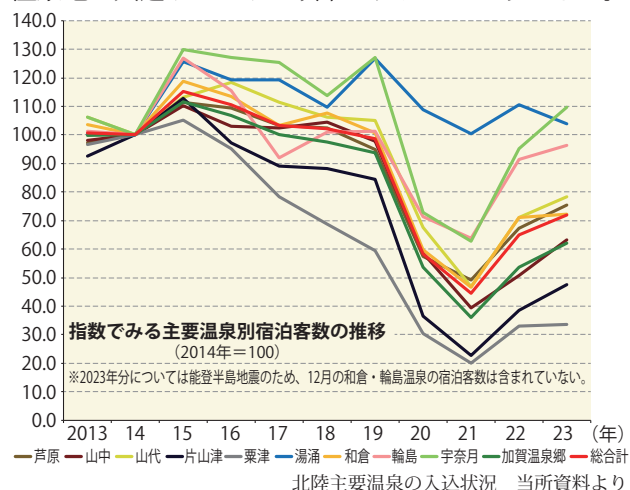
黒部宇奈月温泉駅周辺（上：2015年、下：2024年）  
Google Mapより

2006年に黒部市及び下新川郡宇奈月町が合併して「宇奈月」の町名が消えたが、北陸新幹線の駅名として復活したことは地元にとって慶事であった。当時、黒部市は新駅周辺を乱開発しないこととし、最小限の整備にとどめた。9年後の現在も周囲は田園のまま保たれており、駅周辺の駐車場が拡大されたりレンタカー事業者が進出している他は、建物もほとんどなく変化していないように見える。地域の人々にとって空港的な使い方がされていることがわかる。

また、開業対策としては宇奈月温泉への誘客を第一としながら、広告代理店などを通じた派手な宣伝はせず、オリジナルのPR動画を作成し、当時としては珍しいYouTubeなどの安価な媒体を使って発信していた。

#### ① 宇奈月温泉の宿泊客数推移

実際、温泉名を冠した駅名効果もあり、開業後宇奈月温泉駅への浴客入込は大きく増加した。開業前年の2014年における宿泊数を100とした場合、北陸の各温泉地の入込トレンドは以下のグラフようになる。



宇奈月温泉は2015年の開業初年に前年比3割増加を記録し、その後も高止まりを続けた。コロナ直前の2019年も開業年に劣らない入込となったが、これはアイドルグループによるイベント「ももクロ春の一大事2019 in 黒部市～笑顔のチカラつなげるオモイ～」の誘致・開催による要因が大きいと言われる。とはいえ、コロナ禍にあっても、北陸各地の他の温泉より落ち込みは小さく、23年には唯一延伸前の水準を上回った。「東京に近い」「新幹線が停車する」などの理由をあげる関係者もいるが、先述のアイドルグループのイベントや花火大会のある夏祭り、開湯100周年（2023年）にかかるイベント、スキー場（宇奈月スノーパーク）とのコラボ、ドローンショー、MICEなど、誘客を切らさない地元関係者の努力がリピーターを生んでいる

のは間違いない。宇奈月温泉の地道で継続的な誘客活動は他の温泉地や観光地も参考にすべきであろう。

## ② YKKの一部本社移転

宇奈月温泉の賑わいに目を奪われがちであるが、北陸新幹線開業とほぼ同時期に、YKKグループが東京から黒部市へ本社機能の一部を移転した。同社は黒部で生活する社員が増加するため、黒部宇奈月温泉駅から西へ3 km程離れた場所に、新たな「まちづくり・住まいづくり」を提案する「パッシブタウン」プロジェクトをスタートさせている。1～3街区は賃貸住宅、4街区には保育園が配置されており、街区によって異なる建物で構成されている。また、あいの風とやま鉄道の黒部駅前に「K-TOWN」（ケー・タウン）を整備。「駅前にも賑わいを」「（YKKの）寮生も建物も地域の一員」をうたい、单身社員向けの100戸と、地域の人々との共用施設としてカフェやコンビニの入った「K-HALL」を建設している。YKKの本社一部移転は、ものづくりだけではなく、地域社会全体に影響を与えている稀有な事例といえる。YKKの一部本社移転により、黒部宇奈月は観光だけでなく、ものづくりや街づくりでも新しいステージに入ることができた。

## ③ 延伸開業日の様子

改札前では、宇奈月温泉の女将や新川アイドルグループのメンバーたちが出迎えたほか、黒部宇奈月温泉駅開業9周年を祝うイベント「サクラ咲ク・フェスタ2024 つながるほくりく」が開催された。これは新川地域の市民団体と黒部市が企画したもので、敦賀方面からの到着にあわせ地元の特産品が当たる抽選会、もちつき大会、地元住民も参加した抽選会などで賑わった。

先月号でも記述したとおり、今般の敦賀延伸によ



あいの風とやま鉄道黒部駅前の「K-TOWN」HPより



黒部宇奈月温泉駅の延伸日の様子

り、北陸新幹線は当駅に加えて「加賀温泉」「芦原温泉」の3つの温泉名を持つ路線となった（全国の新幹線駅で見ると全部で6つ）。また、最速タイプの直行便では東京から黒部宇奈月温泉まで最短2時間14分、東京ー加賀温泉が2時間43分、東京ー芦原温泉が2時間51分となる。しかし、乗り換え後の到達時間も考えれば3温泉到着までの時間にそれほど差がなく、今後はそれぞれの特色を活かして、3温泉で協力しながら誘客を進めていく方針のようで、黒部宇奈月温泉駅の土産物のブースでは、加賀・芦原温泉の温泉卵やご当地入浴剤・名菓などが並んでいた。

「新幹線開業による都市間競争」を煽る話が出てくるが、その前提は競争自体が学校の勉強のように同質的であろうという先入観に基づく。人口が減少する中、特に観光において同質の競争で生き残ることは困難であり、いかに地域の異質さを磨き上げ非日常感を作っていくかが誘客のカギになるが、黒部宇奈月は新しい観光メニューを開発済みであり、それが今秋オープン予定であった「黒部宇奈月キャニオンルート」である。黒部峡谷鉄道トロッコ電車の終着駅樺平駅から関西電力の工事用トロッコに乗り換え、豎坑エレベーターで200mの高低差を一気に上昇。蓄電池機関車で高熱隧



黒部宇奈月 Canyon ルート 高熱隧道

Canyon ルートマップ 富山県HPより  
<https://canyon-route.jp/#top>

道を通して黒部第四発電所まで進み、インクライン（勾配鉄道）で斜度34度の急傾斜を登り、最後に黒部トンネル内バスで進むと標高1430mの黒部ダムに到着するという新しいルートで、そこから立山黒部アルペンルートを使って富山または長野方面に下山することができる（逆ルートもあり）。能登半島地震の影響で開業が2025年以降に延期となったが、この新ルートは間違いなく世界のどこにもない秘境と歴史をめぐる旅であり、観光の新たなキラーコンテンツとなるのは間違いない。

先月号で福井県内の4駅における堅実な開業対策や街づくりなどを紹介してきたが、新規延伸対策を練るうえで、行政も含め関係者の多くが開業前後の新潟・富山・石川県や自治体を視察し、また各地の施策を参考にしてきたと語っている。例えば駅前インフラの整備を開業後一気に行った富山市の施策は似たような環境にある福井の駅周辺のインフラ整備に活かされている。また、黒部宇奈月温泉駅が浴客増加のために安価なYouTubeを活用した取り組みは加賀温泉などに活用され、あえて駅周辺開発を未来にゆだねる姿勢や、

YKKの本社移転による地域活性化・ものづくり視点での街の発展は、小松や越前たけふ駅の開業施策に大きな影響を与えたと考えられる。今般の敦賀延伸に際しては、直前に能登半島地震があったこともあり、東京や大阪に首長が出かけて法被を着て地域をPRするようなその場限りのパフォーマンスイベントはほとんど見られなかった。この点もこれまでの延伸開業と異なるものである。

9年前、大都市や霞が関の住人に冷めた視線にさらされた北陸新幹線は、大方の予想を裏切って利用者の高止まりが続き、地域に大きな可能性をもたらした。「金沢ひとり勝ち」などと揶揄されながらも、工場移転が続いており、富山・福井のものづくりにも大きな影響を与えている。人口減少の時代にインフラを整備しただけでは効果はない。地域の人々のソフトウェアやアイデア、戦略、知恵、汗が絶え間なく組み合わせられることで初めて効果が発揮される。ある街の開業対策委員会では、筆者も有識者委員として参加してきたが、当初は特定参加者への利益誘導的な発言が見られたものの、最後には「子や孫のため」に長期的で建設的な議論、街の生き残りへと議論が変わっていくのを見ることができた。また、北陸新幹線の成功は、残りの整備新幹線議論を促進したほか、四国や山形のフル規格新幹線誘致に大きな影響を与えている。東西の大都市から3時間以内に到着できるインフラがあることは、時期が来れば能登半島地震の復興にも必ず役立つことであろう。まずは一日も早い近畿地方への接続を祈りつつ、「再起動 北陸新幹線」シリーズを終えたい。



3月15日 大阪駅で金沢行のサンダーバードを惜しむ人々